

週刊 タバコの正体

喫煙者がタバコを吸っている姿を思い浮かべて下さい。火を付けてから吸い終わるまでの時間と実際に煙を吸い込んでいる時間を比べると、吸い込んでいる時間よりも手に持っている方が長いような気がしますよね。

吸い込んでいなくてもタバコの先からはゆらゆらと煙が立ち上っています。本人が吸い込む煙を“主流煙”と呼ぶのに対して、タバコの先からでる煙は“副流煙”と言うのですが、じつは一見頼りなさそうに見えるうっすらとした副流煙は、かなり有害なのです。

副流煙 { 煙を吸っていない時、
タバコの先端の温度は
500℃程度である。

なぜかと言うと、主流煙に比べ燃焼温度が低く不完全燃焼の煙である上に、主流煙はフィルターを通過しますが副流煙はそのままです。



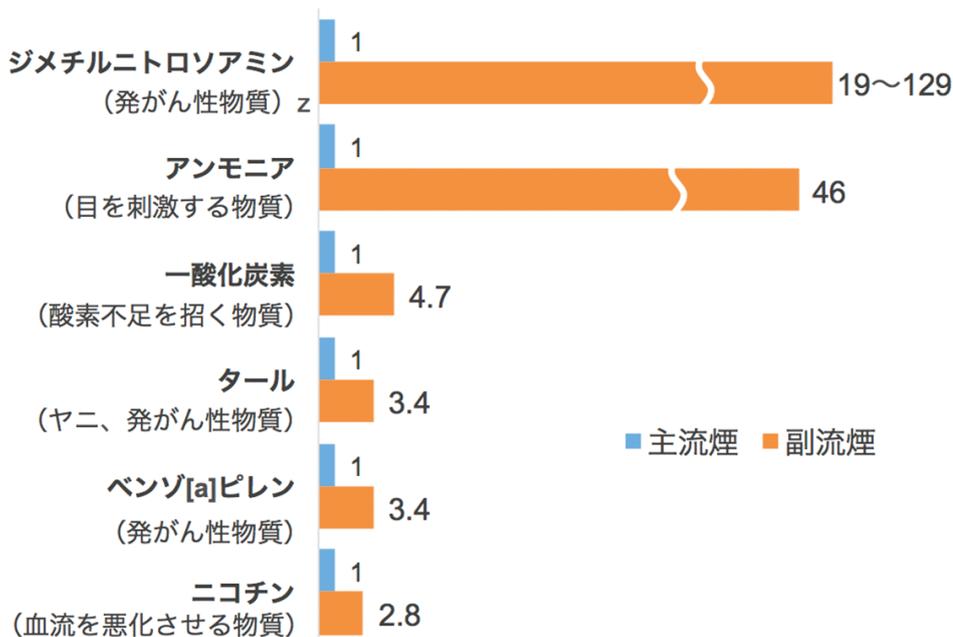
煙を吸いこむ時、
タバコの先端の温度は
900℃にも達するため
発癌物質も分解される

主流煙

具体的には左下のグラフにあるように、主流煙に含まれる有害物質を“1”とすると副流煙には100倍以上も含まれるものもあるのです。ちょっとびっくりしますよね。と同時に「だったら、近くで吸わないで」と思いませんか。

(一社)日本生活習慣病予防協会 HP から

タバコの主流煙と副流煙に含まれる有害物質



他人のタバコを吸わされる事を“受動喫煙”と呼びますが、その煙のほとんどがこの“副流煙”なのです。つまり、本人より危険な煙を吸わされているという訳です。

こんな事情があるので、現在では受動喫煙を防止することが世間の常識となっています。だから、いろんな所が禁煙になっているのは当たり前なのです。

産業デザイン科 奥田 恭久

参考：厚生労働省の最新たばこ情報 より作図